

新しい神戸 期待すべき時期に

井戸知事インタビュー

阪神・淡路大震災から17日で24年となるのを前に、井戸敏三知事は朝日新聞のインタビューに応じた。三宮や県庁周辺の再整備など、復旧復興で遅れていた神戸の新たな街づくりが進むことに期待するとともに、震災の風化を防ぐため、震災遺構の活用や語り部の継承に力を入れていく考えを示した。

阪神大震災 24年

——震災から24年がたち、兵庫は復興したのか
両面あると思う。震災前の人口や経済規模も取り戻した。しかし、復旧復興で官も民も余裕がなく、被災地の中心だった神戸は、東京や大阪、福岡といった他都市に比べて新たな投資が半周どころ

か、1周遅れになっていた。三宮周辺の再整備や県庁の建て替えを含めた新しい街づくりが動き始め、期待すべき時期を迎えつつある。

——残された課題は
一番の課題は風化現象にどう対応するのか。もう一度、「忘れない、伝える、活かす、備える」をキーワードに、震災からの継承をしっかりと生活レベルまで進めていかなくては。

——具体的な方法は
昨年7月の西日本豪雨の被害を受けた岡山県倉敷市真備町では、犠牲者の多くが高齢

遺構活用・語り部継承に力



者だった。災害弱者の避難プログラムを作り、実践的な訓練をする。大阪北部地震の被災地を訪ねたが、高齢世帯では家具や冷蔵庫が倒れ、生活再建の妨げとなっていた。家具の転倒防止キャンペーンなどで啓発につなげたい。

——神戸の東遊園地の「慰霊と復興のモニュメント」や震災遺構の活用は
「忘れない、伝える」という意味で、遺構をプログラムに組み込み、小学生に体験してもらおうコースを作ったほうがいいかもしれない。また、語り部の引き継ぎも課題だ。

——「忘れない、伝える」という意味で、遺構をプログラムに組み込み、小学生に体験してもらおうコースを作ったほうがいいかもしれない。また、語り部の引き継ぎも課題だ。

今の語り部の方々がバトンタッチについて、どのように考えているのか聞いて対応したい。

——昨年は災害が多かった。台風21号による高波・高潮被害を受けて、県が早急に取り組むべきことは
県が防潮堤を整備して数年たち、沈下しているところもある。かさ上げなどの対応も来年度中に計画を作り、進めていきたい。

——災害時の避難の呼びかけで工夫すべきことは
有識者による専門部会を作って、議論している。私は少々空振りがあってもよしとして、避難指示や避難勧告も絶対にならないようにしてはならない。気象庁の気象予報の精度が上がっているので、それを活用し、より正確な情報提供をしていく必要がある。

(聞き手・川田博史)

5組男子 工学部機械工学科
2019.1.15 朝日新聞朝刊